

<研究主題>

主体的に解決しようとする児童の育成
～単元構成や学び合いの場の工夫を通して～

Ⅰ 主題設定の理由

昨年度、研究主題「主体的に解決しようとする児童の育成～必然性のある課題設定や学び合いの場の工夫を通して～」のもと、児童の学びに向かう主体性や思考力を高めることに取り組んできた。その主な成果と課題は、次の通りである。

【成果】

- ・必然性のある課題設定をするために本質的な問いを設定することで、児童に付けたい力が明確化され、ゴールイメージをもって指導することができた。本質に迫る授業展開や発問を教職員で何度も練り合うことができた。
- ・様々な学び合いの場面でICTを活用し、児童同士が考えを共有することによって気づきの質が高まり、学習したことをまとめたり発信したりするなどの表現力が向上した。
- ・児童アンケートの結果、「話し合いによって自分の考えを深めることができた」と肯定的な回答をした児童が3%増加、「タブレットを使った学習により前より学習に進んで取り組めるようになった」と肯定的な回答をした児童が3%増加と、授業に意欲的に取り組む児童が増えた。
- ・学期末テストの結果、60%未満の児童の割合は目標の15%に対して4.5%、90%以上の児童の割合は、目標の35%に対して60%といずれも目標を達成できている。

【課題】

- ・学び合いの場面で、考えを広げ深めさせるためには、児童に任せるのではなく話し合いの観点を示すなど、教師によるファシリテートが必要である。
- ・相手の意見を理解しようとする視点に立って話し合うなど、話し合いの仕方を指導する必要がある。
- ・全ての児童が同じ土台に立って話し合えるための手立てや支援が必要である。
- ・全国学力・学習状況調査の結果、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことに課題が見られた。

これらの成果と課題から、必然性のある課題設定を行うことを継続しながら、協働学習がより一層充実するよう、学び合いの場の工夫について研究していくことや、話し合い活動の具体的なイメージを児童と共有していくこと、児童が、自分のつまずきや課題を見つけ、自ら学習に取り組んでいけるような単元構成の工夫を行っていくことが必要である。

そこで今年度は、昨年度の研究を引き継ぎ、研究主題を「主体的に解決しようとする児童の育成～単元構成や学び合いの場の工夫を通して～」と設定し、実践的な研究を推進していくこととした。

取組の中心として、各教科で身に付けさせたい資質・能力を明確にするとともに、「本質的な問い」を設定し、本質に迫る単元構成や発問の精選を行っていく。また、児童が相互に考えを交流し合う必然性のある「学び合い」の活動を取り入れる。その際に、ICTを活用してより多くの児童と考えを共有したり活動したりすることで、多様な考えに触れ、児童の学びに向かう主体性や思考力を高めていきたい。また、単元の中で学び直す時間を設定し、児童がより主体的に自覚をもって学習を進めていけるようにする。

さらに、全ての児童が学び合いに参加できるよう、ユニバーサルデザイン（視覚化・焦点化・共有化）による授業づくりも継続する。教師が各教科の系統性や単元間の関連性をしっかりと把握し、児童のつまづきに合わせて適切な学習支援ができるようにしていく。

2 研究仮説

児童の主体的な学びの実現を目指した単元構成を行い、学び合いを生み出す質の高い問いや効果的な交流の場の工夫を行えば、児童の学びに向かう姿勢や思考力が高まり、主体的に問題を解決しようとする態度の育成につながるだろう。

3 研究の視点

【主体的な学びを促すための工夫】

① 単元構成・課題設定の工夫

- ・教科の「見方・考え方」を働かせ、深く考えられるような「本質的な問い」の設定
- ・既有知識とのずれや意外性のある事実と出会わせる授業展開
- ・単元の中で、学び直しや自己選択の場を設定

② 学び合いの場の工夫

- ・児童同士の教え合い、練り合いなど様々な学習過程での話合いの設定
- ・ICTを活用した協働的な学びを仕組む場面の設定
- ・児童の言葉をつなぐ、話合いの観点を示すなど教師のファシリテート
- ・話合いを深めるための聞き手の反応や問い返しの指導
- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

4 検証計画

学校評価アンケート（教職員・児童）や児童の具体的な姿や成果物の見取りから検証する。

教職員：教職員アンケート

- ① 児童が自分事として考えたいような、必然性のある課題設定や単元構成を行っている。
- ② 教科の本質にせまるための発問の工夫や、協働的な学び合いの場を設定している。
- ③ 児童一人一人の学力向上につながるように、効果的にICTを活用している。
- ④ 児童が自らの課題を見つけ、改善に向けて努力できるような学び直しの時間を設定している。

児 童：児童アンケート

- ① 授業中「なぜだろう」「できるようになりたい」という気持ちをもっています。
- ② めあてに向けて友達と話し合う中で、よりよい考えに気付き、もっと学びたいと思うことができています。
- ③ タブレットを使った学習をすることで、自分の課題に合った学習に取り組むことができています。
- ④ 自分の課題を見つけ、学び直しの時間に学習し直すことができています。

5 研究の計画

日 程	形 態	内 容
4/13 (木)	全体研修	○今年度の研究の具体（研究主題，構想，内容） ○授業者・単元決定→4/24(月)まで
4/14(金)		○全国学力調査 児童質問紙オンライン
4/18(火)		○全国学力調査
5/11 (木)	全体研修 ICT 研修	○学年の実態把握（昨年度の標準学力調査結果から） ○75%未満 90%以上の児童の把握・学年の取組（各学年） ○単元計画の具体（全体）
5/31 (水)	全体研修	○単元計画案の交流
6/7(水)	全体研修	○指導案検討，授業の概要について（単元構想と授業について）
6/22 (木) 13:15～16:30	全体研修 (授業研究)	○授業研究・研究協議・実践交流 社会科【藤原先生（6 学年）】 ☆講師： 指導主事 指導案メ切：6/12 (月)
夏季休業中 前半 後半	全体研修	○全国学力調査分析 ○話し合いを深めるための I C T の効果的な活用について ○学期末スト 75%未満 90%以上の児童の把握，2 学期からの取組
8/2(水)	グループ研修	○単元計画（各学年）
8/30(水)	全体研修	○指導案検討，授業の概要について（単元構想と授業について） ○単元計画案の交流
9/14 (木)	七尾中学校区 合同研究会	○1 学級持ち込み 国語科【伊藤先生（5 学年）】
11/29 (水)	グループ研修	○指導案検討①（中学年グループ） ○単元計画実践についてのふり返り（高・低学年グループ）
12/7 (木)	全体研修	○指導案検討②（全体）
1 月		○標準学力調査・廿日市市学力定着状況調査
1/18 (木) 13:15～16:30	全体研修 (授業研究)	○授業研究・研究協議 算数科【松尾先生（4 学年）】 ☆講師： 指導主事 指導案メ切：1/5 (金)
2 月	報告	○研究のまとめ（75%未満 90%以上・指導の工夫 等） ○標準学力調査報告，次年度の方向性

※全体研修等の際には，低・中・高学年グループによるグループ研修により重点的に協議を行う。

※授業研究：《全体研修》1 学期・2 学期（七尾中学校持ち込み授業）・3 学期…計 3 回

これはどうする？↓

話し合いでつけない力

- ① 最後まで肯定的に聞く力
- ② 相づちをうちながら聞く力
- ③ 目的を理解して聞く力
- ③ 分かろうとして聞く力
- ④ 自分の考えと比較しながら聞く力(共通点や相違点)
- ⑤ 質問する力
- ⑥ 相手の話を受けて話をつなぐちから
- ⑦ 自分の言葉で表現する力
- ⑧ 自分の考えと相手の考えを整理して説明する力

「相手の考えを知るための質問」
「理解・納得を伝える」
「考えが違ってても、納得できるところを見つける」など